

着任のご挨拶

クラスニー, ヤロスラフ

皆さま、はじめまして。2025年4月より長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)の教授として着任いたしました、クラスニー・ヤロスラフと申します。

私はチェコ共和国の出身で、若い頃はチェコ警察高等学校を卒業した後、内務省安全保障部において大量破壊兵器不拡散課の上級執行官を務めました。国家の安全を守る現場で培った経験は、国際社会における平和と安定の重要性を強く意識させるものとなりました。その後研究の道に進み、広島大学で学びを深め、日本に根を下ろすようになりました。すでに15年以上日本で生活を送り、広島と長崎という被爆地の歴史を身近に学んできたことは、私の研究者としての姿勢に大きな影響を与えております。

直近では国連軍縮研究所(UNIDIR)に研究員として勤務し、ジュネーブを拠点に核兵器や生物兵器をはじめとする大量破壊兵器に関する課題に携わってまいりました。各国の代表や専門家、市民社会との対話を重ねる中で、国際安全保障の複雑さと同時に、対話と協力を通じて問題解決の糸口を見出すことの可能性を実感しました。特に、異なる立場や価値観を持つ人々が議論を重ね、共通の目標を模索していく姿勢に、大きな希望を感じたことを覚えています。

二児の父として、次世代に安全で平和な世界を残すことの責任も日々痛感しております。命の尊さ、そして平和の脆さを意識するたびに、私自身の研究活動が持つ意味を改めて考えさせられます。長崎という地で平和と核兵器廃絶に関する教育と研究に携わることは、私にとって大きな使命であり、光



栄であると同時に身の引き締まる思いです。

これまでの経験を糧に、核兵器のない平和で持続可能な世界の実現に向けて、研究・教育・社会貢献の三つの面から力を尽くしてまいります。皆さまと共に学び、考え、未来を築いていけることを心から楽しみにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(くらーすにー やろすらふ、RECNA教授)

TPNW締約国会合とNPT準備委員会への参加

河合 公明

3月3日から7日まで、ニューヨークの国連本部で行われた核兵器禁止条約(TPNW)第3回締約国会合に、RECNAから河合公明副センター長・教授、鈴木達治郎教授、中村桂子准教授の3名が参加した。RECNAから締約国会合に研究者が派遣されるのは初めてで、現地では、会合の傍聴をするともに専門家との意見交換を行った。また3名は、会合の分析レポートの執筆、会合文書の翻訳を行い、RECNAのTPNW ブログ 2025 で公開した。同ブログは、[https://](https://recnatpnw2025.wordpress.com)

recnatpnw2025.wordpress.com で閲覧できる。

TPNWは、条約発効から5年後(以降6年ごと)に、「条約の運用および目的の達成状況を検討するための会議」(再検討会議)を開催することを定めている(第8条)。そのため、今回の会合は、2026年11月30日から12月4日にニューヨークの国連本部で開催される初の再検討会議を控えた最後の協議の場として、条約の前進に向けた国際的な機運を醸成し、次のステップへの準備を整えることが期待された。

同会合の議論に貢献することを目的に、RECNAでは2024年7月、論文集「核兵器のない世界のために—TPNW 第3回締約国会合に向けた議論」(RECNAポリシーペーパー20)を発刊した。同ポリシーペーパーは、同会合文書として登録され(文書番号 TPNW/MSP/2025/NGO/14)、河合副センター長がその要旨を3月7日の第9セッションにおける発言で紹介した。

また、河合副センター長は、4月28日から5月2日まで、ニューヨークの国連本部で行われた核不拡散条約(NPT)第3回準備委員会に参加した。現地では、核軍縮をテーマに会議を傍聴するとともに分析レポートを執筆し、RECNAのNPT ブログ 2025 で公開した。同ブログは、<https://recnanpt2025.wordpress.com> で閲覧できる。

(かわい きみあき、RECNA副センター長・教授)



TPNW第3回締約国会合の議場
(NY国連本部 撮影:RECNA)

ナガサキ・ユース代表団 13期生 活動報告

樋川 和子

8月31日、ナガサキ・ユース代表団13期生は約9ヶ月間にわたる任期を終了した。

8月27日に長崎大学文教キャンパス・スカイホールで行われた報告会では、任期中に行った「9090分」のミーティングの内容だけでなく、ナガサキ・ユース代表団としての様々な活動について包括的な報告がなされた。報告の様子は[YouTube](#)でも配信されているので是非ご覧いただきたい。ナガサキ・ユース代表団13期生として彼らが如何に充実した数ヶ月を過ごしたかがお分かり頂けるはずである。昨年の12月から今年の8月末まで、一緒に悩み、考え、最後にこうした報告会を迎えられることが出来たことを非常に嬉しく感じた。

13期生は「奇跡の6人」である。応募者6名の中から選出された6名。それぞれ独特の個性を持ち、それぞれの得意分野を活かしながら、時にぶつかることがあっても互いの声に耳を傾け、それぞれの立場を尊重し、協力しあって、NY渡航を成功させてくれた。チームワークというもののお手本を示してくれ

たように思う。さらに、NY渡航後も出前授業や様々なイベントに登壇し、活動を通して学んだことの発信を積極的に行ってくれた。彼らが発する言葉は、誰かの受け売りや一般的に言われていることなどではなく、自ら考え、自ら学んだことを自分の言葉で綴ったものであった。それが発信に説得力を与え、多くの人を感動させたのではないと思う。ナガサキ・ユース代表団としての任期は終わったが、今後も何らかの形で核兵器の問題に取り組んでくれることを期待する。

【ナガサキ・ユース代表団13期生の軌跡】

11月20日 任命式・記者会見

12月～4月 勉強会や研修(NPT運用検討会議第3回準備委員会参加準備を含む)、ミーティング等の活動

4月下旬～5月上旬 NPT運用検討会議第3回準備委員会(ニューヨーク)、現地からのインスタグラム・ブログ発信

5月～8月末 出前講座等によるユースとしての経験・学びの共有活動、活動報告会の開催、活動報告書の作成

8月9日 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典出席

8月31日 ナガサキ・ユース代表団第13期生 任期終了

＊その他の活動等：

核兵器廃絶市民講座への参加

核兵器廃絶長崎連絡協議会等(RECNA、長崎県、長崎市)が開催するイベント等への参加

(ひかわ かずこ、RECNA副センター長・教授)



活動報告会終了後の記念撮影

(2025年8月27日 長崎大学文教スカイホール 撮影:核兵器廃絶長崎連絡協議会)

対話プロジェクトについて

吉田 文彦

被爆・戦後80年の今年を迎えるにあたり、RECNAは「対話」を基本コンセプトにした研究・教育事業を始動させた。「対話に基づく軍縮」などを共同研究、共同イベントのテーマにすべく、バチカン市国や教皇庁直属の大学と協議を行った。核兵器廃絶長崎連絡協議会主催の市民講座の通年テーマも「対話で平和を組み立てる」として、講座の内容を工夫した。

ウェブサイト上の展開も2025年4月に新たにスタートさせた。サイトの名前は、「[開かれた長崎2.0「平和のための 対話ビッグバン」に向けて](#)」。その主旨説明において、「戦争・暴力の反対語が平和ではなく対話であるならば、私たちは対話を始め、広げ、共感の輪を大きくして、紛争を戦争や暴力で解決できるとの誤解を解いていく必要があります」「平和のための対話

ビッグバン——それをうながしていくために長崎は、平和にむけた多種多様な対話の玄関口(対話の出島)を開いて、国内外の対話人とつながり、ネットワークづくりを進めていくことが大切です(＝「開かれた長崎2.0」)」と記した。

本サイトのイラストはひとつひとつ、すべてが一筆書きである。あえてそうした理由については以下のように説明している。「個々のイラストには、一本の線でつながる無数の対話、そこから生まれる物語へと私たちを誘ってくれる力があります。点が線に、線が面にと、対話が広がってほしいとの願いを込めて、ここで活躍してくれるイラストを選びました」。8月には英語版サイトも開いて、コンテンツの充実に努めている。

対話プロジェクトのために新たに三人の方に客員研究員と

してRECNAの仕事に加わっていただいた。前田真里さん(フリーアナウンサー)、平林千奈満さん(小学校教諭)、西山心さん(長崎大学大学院生)のお三方で、すでにサイトでの執筆、

ネットワーク拡大などで活躍していただいている。

(よしだ ふみひこ、RECNAセンター長・教授)



対話プロジェクト ウェブサイト (<https://recna-taiwa.com/>)

UNIDIRとの学術交流協定(覚書)について

吉田 文彦

ジュネーブ(スイス)にある国連軍縮研究所(UNIDIR)は1980年の国連総会決議に基づいて設立された。国連事務総長の下で独立した学術的研究を行う特別機関で、軍縮・兵器管理・国際安全保障の政策的議論を支えることを目的としている。政府間交渉だけでは不十分になりがちな軍縮・安全保障分野において、エビデンスに基づく政策提言や信頼醸成のための分析を提供する役割を担っている。

RECNAはこのUNIDIRと2024年9月23日付で、学術交流・研究協力に関する覚書を締結し、今年度から共同研究などを本格化した。来日したUNIDIRのロビン・ガイス所長を、今年度の第1回核兵器廃絶市民講座「平和と軍縮における対話の大切さ*1」(5月21日開催、核兵器廃絶長崎連絡協議会主催)の講師としてお招きした。また、ガイス所長の長崎訪問の機会を活用して、RECNAとの今後の共同研究のあり方などについて広範囲にわたって意見交換した。それを契機に、9月に長崎で



第1回核兵器廃絶市民講座の様子

(2025年5月21日 ベネックス長崎ブリックホール国際会議場 撮影:核兵器廃絶長崎連絡協議会)

開催した RECNAとソウル国立大学平和統一研究院(IPUS)による共同ワークショップにUNIDIRの研究者二人を招き、RECNAの研究状況への理解を深めてもらうとともに、共同研究の具体化を協議した。

その結果、2026年1月にジュネーブで国際ワークショップ“Risk at the Intersections: The Nuclear Impacts of Emerging Technologies”(仮題:交錯するリスク:新興技術の核への影響)を開催する計画が具体化し、準備作業を進めている。

RECNAと覚書を結んでいるストックホルム国際平和研究所(SIPRI)も共催に加わっていく計画である。

(よしだ ふみひこ、RECNAセンター長・教授)

*1 市民講座の動画は以下で視聴できる

https://www.youtube.com/watch?v=1hEi_ak89ao

世界の核弾頭データ2025年版の更新について

中村 桂子

核兵器をめぐる世界の現状を一般向けにわかりやすく伝えるため、核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)とRECNAは2013年より毎年「[世界の核弾頭データ](#)」の更新を行ってきた。その内容は、9か国の核戦力を解説したウェブデータベース、それを基にしたポスターと解説リーフレット、さらに「よくある質問」を取り上げたデジタル解説の4点である。ポスターとリーフレットは長崎県内の公立小中学校をはじめ、全国各地の教育現場や図書館等にも配布されている。

昨年、ポスターのデザインが大幅に刷新された。それまでは各国の「核弾頭総数」を種類別にアイコンで表す方式であったが、新デザインでは「現役核弾頭数」の増加傾向に焦点を当て、進行する核軍拡の実態をより鮮明に示すことを目指した。「現役核弾頭数」とは「核弾頭総数」から退役・解体待ちの弾頭を除いたものであり、すなわち実際に配備中の弾頭と、配備に備えて保管されている弾頭の合計を指す。

もちろん「核弾頭総数」も引き続き重要な情報である。しかしその増減のみに注目することは、かえって情勢を誤認させる危険性をはらむ。総数の削減分の多くは米ロが保有する老朽化した退役弾頭であり、それが減少しても核戦力が実質的に縮小しているとは限らない。実際、ポスターが登場した2013年以降、核弾頭総数は約3割減少したが、世界の安全保障環境はむしろ悪化し、核リスクは高まっている。

一方、「現役核弾頭数」は2025年6月現在で9か国合計9,615発に達し、2018年を境に増加傾向を示している。2018年2月は、米ロ間の新戦略兵器削減条約(新START)の履行期限にあたり、この事実は2026年に同条約が失効することを踏まえ、新たな軍備管理・軍縮の枠組み構築が急務であることを示している。

ポスターでは各国の「現役核弾頭数」に加え、2018年から2025年にかけての増減数と増減率を表示した。最も高い増加率を示したのは北朝鮮であり、続いて中国、インド、パキスタンが並ぶ。米ロ2か国が依然として「現役核弾頭数」の8割以上を占め、核軍縮に向けた特別の責任を担っていることは



言うまでもないが、残る7か国の割合も2018年の12%から2025年には17%へと拡大しており、この動向にも注意が必要である。

一枚のポスターが表現できる内容には限界がある。特に「質的」な軍拡は示されていない。米ロは「現役核弾頭数」をわずかに減らしているものの、同時に莫大な予算を投じて核戦力の近代化を進めている国である。こうした詳細は解説リーフレットやデジタル解説に委ねている。特に昨年から登場したデジタル解説はスマートフォンやタブレットに対応しており、小中学生から大人まで幅広い層において学習教材としての利用が期待されている。

(なかむら けいこ、RECNA准教授)

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)は、戦後・被爆80年企画として、英国のシンクタンク「British American Security Information Council (BASIC)^(注1)」と連携した国際人材育成プロジェクト「[対話で平和を組み立てる](#)」を4月に立ち上げた。このプロジェクトでは、「核兵器を含むリスクから人類と地球を守るために、それぞれの世代が果たさなければいけない責任とはなにか」をテーマに、海外の若者と長崎の若者が対話を通じた研究会を行い、研究結果を報告書にまとめ、来年3月に長崎にて報告会を行うこととなっている。

PCU-NCは人材育成プロジェクトとして核軍縮問題に関する予備知識を持たない学生も対象としたナガサキ・ユース代表団を組織してきたが、本プロジェクトは、核軍縮や関連する国際問題についてある程度の活動実績ないしは研究実績を有する若者を対象に立ち上げられたものである。

参加者は長崎在住の若者8名(長崎大学多文化社会学部、同経済学部、同環境科学部、同医学部、同長崎大学大学院多文化社会学研究科の学生)とイギリスのシンクタンクBASIC^(注1)のEVN^(注2)プログラムから選ばれた9名(国籍は、カザフスタン、マレーシア、レバノン、ジンバブエ、メキシコ、カナダ、米、ロシア)の計17名。3つのワーキング・グループに分かれて、オンラインでの研究会を行い、報告書のドラフトを12月末までに仕上げることとなっている。3つのワーキング・グループのテーマはそれぞれ、①新興技術と核兵器(Emerging technologies and nuclear weapons)、②被爆地としての長崎の役割(Role of Nagasaki as a city experienced nuclear bombing)、③気候変動と核兵器(Climate change and nu-

clear weapons)。12月末の報告書案完成に向け、オンラインではあるが熱心な取り組みが行われている。

(ひかわ かずこ、RECNA副センター長・教授)

(注1)BASICとは

BASICはイギリスに所在する独立系非営利シンクタンク。BASICは1987年の設立以来、BASICが有するネットワークと専門知識を駆使し、対立する国同士、人同士の対話・交流を促進し、世界的にも高い評価を得てきている。BASICは「人類と地球の生態系を、核リスクと相互に関連する安全保障上の脅威から世代を超えて守ること」をその使命として掲げており、戦略的対話、包摂的国際安全保障、核の責任、核リスク削減と題したプロジェクトを実施してきている。

(注2)EVNとは

EVN(Emerging Voice Network)は、BASICが行っているプロジェクトの一つで、核兵器の問題に関して潜在的可能性を持つ世界中の若手研究者のグローバル・デジタル・ネットワーク。若手研究者の間での持続的な対話を可能にし、共同での問題解決を促進するネットワークを構築するプロジェクト。EVNは2020年以降、イベント開催や出版物の発行、アウトリーチ活動を通じてネットワーク作りを行ってきた。メンバーは約350人。



7月に行われた記者会見の様様

(2025年7月29日 RECNA会議室 撮影:核兵器廃絶長崎連絡協議会)

- | | |
|---|--|
| <p>4月9日(水) ■ウェブサイト「対話プロジェクト」開設
URL: https://recna-taiwa.com/</p> <p>4月14日(月) ■ナガサキ・ユース代表団のNPT再検討会議
準備委員会派遣記者会見
ナガサキ・ユース代表団、調核兵器廃絶長崎
連絡協議会長、樋川副センター長
場所: 長崎県庁 308会議室</p> <p>4月22日(火) ■追悼: フランシスコ教皇 核兵器廃絶に向け
た道徳的灯台を偲ぶ 発表</p> <p>4月25日(金) ■2026年核拡散防止条約(NPT)再検討会
～5月6日(火) 議第3回準備委員会参加
調核兵器廃絶長崎連絡協議会長、河合副セ
ンター長、樋川副センター長、ナガサキ・ユ
ース代表団第13期生</p> <p>5月21日(水) ■2025年度核兵器廃絶市民講座
第1回 平和と軍縮における対話の大切さ
講師: ロビン ガイス(国連軍縮研究所所長)
場所: ベネックス長崎ブリックホール国際会議
場+オンライン</p> <p>5月28日(水) ■ナガサキ・ユース代表団第13期生 NY派遣
活動報告会
場所: オンライン</p> <p>6月4日(水) ■2025年度版「世界の核弾頭データポ
スター」・「世界の核物質データ」発表記者会見
調核兵器廃絶長崎連絡協議会会長、吉田セ
ンター長、コンペル准教授、中村准教授
場所: RECNA1階会議室+オンライン</p> <p>6月9日(月) ■被爆80年事業記者会見
調核兵器廃絶長崎連絡協議会会長、吉田セ
ンター長、樋川副センター長
場所: RECNA1階会議室</p> <p>6月28日(土) ■2025年度核兵器廃絶市民講座
第2回 躍動する新しい世代
講師: 樋川副センター長
【第1部】寺本南咲・大崎結月(国連ユースビ
デオチャレンジ入賞者)、【第2部】ナガサキ・
ユース代表団第13期生
場所: 長崎原爆資料館ホール+オンライン</p> | <p>8月8日(金) ■連合2025平和ナガサキ集会
講師: 吉田センター長
場所: 長崎県立総合体育館</p> <p>8月20日(水) ■ピースマッチ2025 平和セミナー
講師: 樋川副センター長
場所: スタジアムシティ長崎</p> <p>8月23日(土) ■2025年度核兵器廃絶市民講座
第3回 美術作品から読み解く戦争と平和
講師: 小坂 智子(長崎県美術館 館長)
場所: 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
交流ラウンジ+オンライン</p> <p>8月25日(月) ■参加型対話会「平和と環境」～戦後80年を
経て 未来の地球のためにつなぐ～
樋川副センター長
場所: 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館</p> <p>8月27日(水) ■ナガサキ・ユース代表団第13期生 活動報
告会
場所: 長崎大学文教スカイホール+オンライ
ン</p> <p>9月16日(火) Joint Workshop by RECNA and IPUS
～9月17日(水) 場所: 長崎大学テクノロジーイノベーションキャン
パス(NUTIC)</p> <p>9月26日(金) ■ナガサキ・ユース代表団第14期生メンバ
ー発表及び任命式
場所: RECNA1階会議室</p> |
|---|--|

お知らせ

2025年度 核兵器廃絶市民講座のご案内

第4回「歴史検証 対話が核軍縮を進める」

講師：吉田 文彦（RECNAセンター長）

西山 心（長崎大学大学院博士課程）

日時：2025年11月15日（土）13:30～15:00

会場：長崎原爆資料館ホール
＋オンライン配信

オンライン参加申込URL：

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_0EHVtWFIRrevfgkgrE2xtQ

※ 詳細は [こちら](#) をご覧ください。

2025年度 核兵器廃絶市民講座

被爆80年 対話で平和を組み立てる

- 申込不要（オンライン参加要申込）
- 受講料無料

オンライン配信あります

1 5/21 平和と軍縮における対話の大切さ

18:00～19:30

同時通訳付

ロビン・ガイス
（国連軍縮研究所所長）

会場 ベネックス長崎ブリックホール国際会議場

2 6/28 躍動する新しい世代

13:30～15:00

樋川 和子（RECNA副代表）
第1部 寺本 南咲（長崎大学経済学部）
大崎 結月（長崎大学経済学部）
第2部 大崎 結月（長崎大学経済学部）

会場 長崎原爆資料館ホール

3 8/23 美術作品から読み解く戦争と平和

13:30～15:00

小坂 智子
（長崎県美術館 館長）

会場 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジ

主催 核兵器廃絶長崎連絡協議会
共催 長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）

オンライン申し込みは [こちら](#)

4 11/15 歴史検証 対話が核軍縮を進める

13:30～15:00

吉田 文彦（RECNAセンター長）
西山 心（長崎大学大学院博士課程）

会場 長崎原爆資料館ホール

お問合せ
核兵器廃絶長崎連絡協議会事務局 TEL. 095-819-2252
〒852-8521 長崎市文教町1-14（長崎大学内） FAX. 095-819-2165
<https://www.pcu-nc.jp/citizen-seminar/2025-citizen-lecture/>

第5回 特別講座

※特別講座については時宜に合った内容で開催予定です。日時、会場は未定

講座終了後、第3・4回は「RECNAと語ろう」があります。

RECNA ニュースレター

長崎大学核兵器廃絶研究センター

第14巻1号 2025年9月30日発行

発行 長崎大学核兵器廃絶研究センター
〒852-8521 長崎市文教町1-14
Tel. 095-819-2164 Fax. 095-819-2165
E-mail: recna_staff@ml.nagasaki-u.ac.jp
<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

©2025 長崎大学核兵器廃絶研究センター